



## 水生こん虫は、水がなくなったら死んでしまうの

### 少しの間なら、平気な虫もいる

水生こん虫には、トンボやホタルのように幼虫時代だけ水中にいるものと、成虫になっても水中でくらすものがあります。

水中でくらすこん虫は、みんな、もとは空気中で生活していたものが、水中でくらすようになったものです。そのため、成虫は、水中で息ができる、えらをもっていません。そこで、ゲンゴロウのようにおしりに空気のあわをつけて水中にもぐったり、ミズカマキリのように、体の一部を水面に出して、息をしています。ですから、水中でなくても、呼吸をするのには、こまりません。

### 羽があるものは、水のある所へにげ出す

でも、ゲンゴロウは、おしりの空気のあわに、水中の酸素も、とかして利用しています。長い時間、水気のない所でくらすのは苦手といえます。また、水中や水面で、えさをとらせる生活にあった体のしくみになっているため、水のない所でくらすのは、むずかしいでしょう。羽があって飛べる水生こん虫は、水がなくなれば、空中を飛んで、水のある所へ引っこしてしまいます。

### 死ぬものもいる

トンボやホタルの幼虫や、成虫も水中でくらす虫の幼虫は、えらをもつものも多く、水の中でえさをとらえて成長します。そのため、水がなくなれば、すぐ死んでしまいます。水生こん虫の卵も、羽化したら、幼虫が水中にすぐ出られるように、産みつけられているので、水がなければ死んでしまいます。（監修・中山 周平）

